



Joyful Naturalist

Joyful Naturalist は「鶴見川源流ネットワーク」の通信から「特定非営利活動法人 鶴見川源流ネットワーク」の情報誌に生まれ変わりました。

Contents

Topics * 第16回鶴見川源流祭報告

* 小山田田んぼ～田植え～

NPO法人鶴見川源流ネットワークプロジェクト活動
NPO法人鶴見川源流ネットワークとして推進しているプロジェクト活動の紹介です。

鶴見川源流ネットワーク参加団体活動

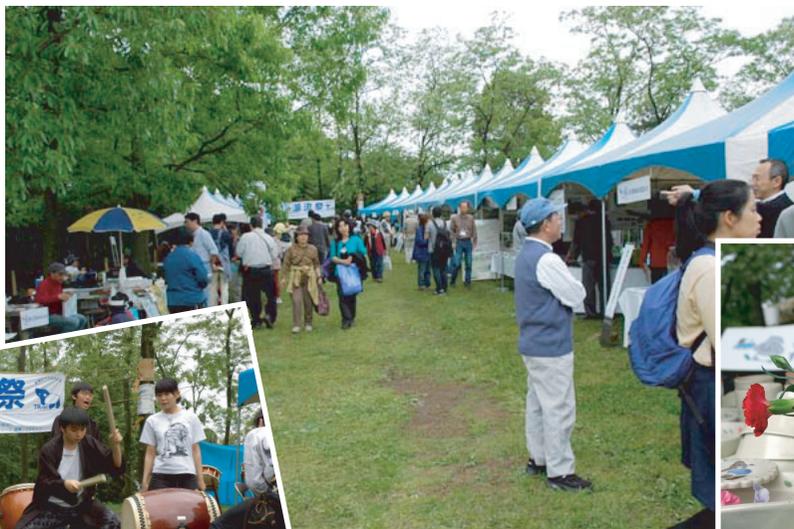
鶴見川源流ネットワークとして連携している諸団体から依頼されて広報するページです。

5月、6月の活動報告

7月、8月の活動予定

No.152

第16回 鶴見川源流祭 ご支援御礼



5月14日、第16回鶴見川源流祭が賑やかに実施されました。テーマは、「いざゆかん源流へ・保水の森は春うらら」。参加者は約350名でした。終日雨の予想もありましたが、朝からあがりはじめ、昼前には、青空ものぞく穏やかな高曇りとなりました。まぶしい5月の光こそありませんでしたが、強風も突然の雷鳴もない、本当におだやかで安心な、源流祭となりました。進行は、あちこちあいかわらずの凸凹ありではありましたが、賑やかな源流歩きあり、市民団体、行政の出店あり、和光大学竜鼓座や源流ネットの和太鼓という素晴らしい出しものもありで、見事、大成功であったと思います。共催支援して下さった、町田市、京浜河川事務所・鶴見川流域水協議会、東京都、(財)東京都公園協会、そしてTRネット、いるか丘陵ネットのみなさんに、厚く御礼申し上げます。

なによりの成果は、町田新市長が、最源流田中谷戸にDNAの一部のルーツがおありになること、そして野鳥ファンにして「いるか丘陵自然観察ガイド」(岸由二編著)の共同執筆者であるとを自己紹介をしてくださり、小山田源流へのデビューを果たして下さったことかもしれません。鶴見川源流保水の森の大きな保全の流れは、新しい町田市政にも、またしっかり継続されてゆくものと思います。

思えば1991年、TRネットの流域支援の力をフルにお借りして、第1回源流祭を實行してから16年、その年の源流シンポで源流グループが提案した大きな保全の計画は、2006年現在、事実上、すべて実現する展開となりました。振り返り、その成果の巨大なことに圧倒され、月並みではありますが、真実、身の引き締まる思いがあります。16年(源流グループの歴史でいえばもう18年!)にわたるたくさんの仲間たちの志や思いに励まされての成果です。

不安な天候予想のなか、駆けつけて下さったみなさまの厚いご支援、本当にありがとうございました。全ての関係者の皆様に、源流祭主催グループを代表して、あらためて心よりのお礼を申し上げます。

【鶴見川源流ネットワーク 第16回・鶴見川源流祭実行委員長 岸 由二】